

1989

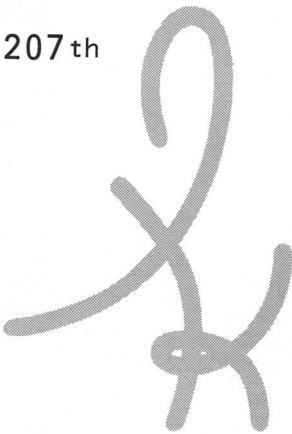
市川市文化祭

ファミリー交響楽 コンサート

平成 1 年 12 月 10 日 (日)
午後 2 時
市川市文化会館大ホール

1989

207th



市川市教育委員会 市川交響楽団協会
千葉県音楽振興協議会 共催

プ ロ グ ラ ム

演奏 市川交響楽団

指揮 津田雄二郎

管 弦 楽

歌劇「後宮からの逃走」序曲 K 384……………モーツァルト
(1756~1791)

協 奏 曲

独奏 根津昭義

バイオリン協奏曲 ホ短調 作品64……………メンデルスゾーン
(1809~1847)

第1楽章 アレグロ・モルト・アパシヨナート

第2楽章 アンダンテ

第3楽章 アレグレット—アレグロ・モルト・ビバーチェ

————— 休 憩 —————

交 響 曲

交響曲 第5番 ホ短調 作品64……………チャイコフスキー
(1840~1893)

第1楽章 アンダンテ—アレグロ・コン・アニマ

第2楽章 アンダンテ・カンタービレ

第3楽章 ワルツ:アレグロ・モデラート

第4楽章 アンダンテ・マエストーソ—アレグロ・ビバーチェ



紹 介



根 津 昭 義 (バイオリン独奏)

1949年 東京に生まれ、3歳の頃より才能教育でヴァイオリンを学ぶ。

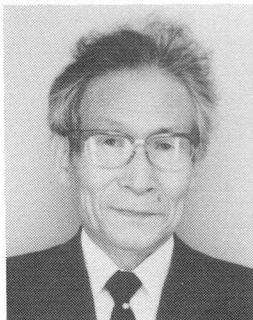
1971年 東京大学理学部を卒業後、1972年東京芸術大学に入学 在学中は、山岡耕筈氏、田中千香士氏に師事、他にヴォルフガング・ミュラー氏、ノーマン・キャロル氏の指導も受ける。

1976年 東京芸術大学を卒業後、NHK交響楽団に入団、その演奏活動に従事するかたわら、数回にわたるリサイタルを開催し、現在に至る。日本演奏連盟会員、日本弦楽指導者協会理事。



指 揮 / 津 田 雄 二 郎

昭和31年青森県生まれ。昭和55年東京芸術大学音楽学部器楽科(トロンボーン専攻)卒業。ピアノを田中健彌、トロンボーンをクルトブツケ、伊藤 清、J・アレッシ、作曲を小倉伸作、ヴァイオリンを桑原幹子、指揮を佐藤功太郎、大友直人の各氏に師事。現在、船橋東高校に勤務し、合唱部と吹奏楽部の指導に当たるかたわら、市川交響吹奏楽団、慶応義塾大学ウィンドアンサンブル等の指揮者として活躍中。市川交響吹奏楽団を3年連続全国大会金賞へ導くなど、その指導ぶりには定評がある。近年は、オーケストラの指揮にもなみなみならぬ意欲をみせており、市川交響楽団で活躍した経歴もあって、当団との関係も深い。



村 上 正 治 (団 長)

団長は、君津郡袖ヶ浦町横田出身の牧師である村上治氏の長男として、1914年に新潟県村上町で誕生されました。明治学院中学部卒業後同校高等部商科に進学しましたが作曲希望で中退、音楽修業に専念、1935年国立音楽大学作曲部に入学して卒業後は市川小を初め中央国民学校や市川高女、市川一中、市川二中に務めながら市川文化会や市川混声、市響、市響吹奏楽、ジュニアオケ、行徳混声を結成して指導に当り、県音楽教育研究会や全千葉合唱連盟、県吹奏楽連盟、千葉交響楽団協会、県及び市川市の両芸術文化団体協議会、日本アマチュアオーケストラ連盟、全日本文化団体連合会等をも組織し、文化振興に貢献したかどで過去に市川市教育委員会、千葉県知事、文化庁長官の文化功勞を受賞していましたが、一昨秋、勲四等瑞宝賞を叙勲されました。

曲 目 解 説

歌劇「後宮からの逃走」序曲 K 384

W. A. モーツァルト

モーツァルトがコンスタンツェと結婚する1年前の1781年に作曲にとりかかった歌劇「後宮からの逃走」は、トルコを舞台にした3幕4場の喜劇である。ヒロインの名前はコンスタンツェと言い、トルコのハレムにつかまえられたヒロインを青年ベルモンテが助け出すといった筋立てになっている。

当時、あまり仕事の無かったモーツァルトは この歌劇で恋人のコンスタンツェやその母ウェーバー夫人にその才能を認めさせたと言われている。

曲は軽快なテンポの2拍子で始まり、トライアングルとシンバルがトルコの雰囲気を感じさせる。中間部は劇中のアリアがとりいれられ ゆっくりとした曲想となるが、後半はまた軽快な2拍子となって曲を終る。
(クラリネット: 時 田)

バイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

メンデルスゾーン

バイオリン協奏曲といえばチャイコフスキー、ベートーベン、ブラームスなどがあげられるが、メンデルスゾーンのバイオリン協奏曲も最もポピュラーな作品の1つである。

どの作品もその当時の有名なバイオリニストの為に書かれたとされているが、この作品もフェルディナンド・ダービット(1810~1873)というバイオリニストの為に書かれている。

作曲は1830年に着手し、6年後の1844年、35歳の時に完成している。このように作曲に長い年月がかかったのは奏者の意見を十分にとり入れながら慎重に仕事を進めた為であろう。またメンデルスゾーンは38歳で没している為、晩年の充実した作品とみることもできる。

曲は短い序奏のあと 独奏バイオリンによるホ短調の第1主題が始まり、それをオーケストラが受けつぐ。第2主題はクラリネットにより提示され独奏バイオリンに移っていく。中間部に現れるカデンツァは作曲者自身によって書かれており、これはメンデルスゾーンが始めた新しい試みとされ、後にチャイコフスキーもこの手法を取り入れている。

第2楽章は第1楽章の最後のファゴットの音から切れ目なく始まり、6/8拍子のロマンチックな旋律が流れる。

第3楽章に入る前に14小節間の序奏があるが これは第2楽章のロマンチックな気分から、速いテンポの終楽章への橋渡しとなり、曲想の移りかわりを効果的にしている。

トランペットのファンファーレにつづいて独奏バイオリンとオーケストラの競走が始まり第2主題、弦楽器との対旋律を経ながらコーダに入り華やかに曲を閉じる。
(クラリネット: 時 田)

交響曲第5番 ホ短調 作品64

チャイコフスキー

この曲は、チャイコフスキーが作曲した6つの交響曲のうち、第6番『悲愴』とならんで、演奏される機会の多い曲です。

初演されたのは約100年前、1888年11月17日のことで、ペテルブルグにおいて作曲者自身の指揮によって行われました。このとき、聴衆からは大変歓迎されたものの、批評家の評判は、あまりよくありませんでした。

現在の人気からは想像できませんが、チャイコフスキー自身が、この曲をあまり好んでいなかったそうです。当時48歳の彼は、疲れを訴えるようになっており、創作活動にも行きづまりを感じていたようなので、無理もないことかもしれません。

しかし、翌年のモスクワとハンブルグでの演奏会では大好評を博したので、チャイコフスキーも自信をもつようになったということです。

第1楽章 序奏でクラリネットが暗い感じの旋律を独奏します。これが「運命の動機」とよばれる、曲全体の主眼旋律であり、その後も形を変えて現れてきます。

第1主題は、クラリネットとファゴットで奏でられる、暗い感じの中にもリズム感のある旋律で、これはポーランド民謡からとったらしいということです。

さらに流れるような第2主題が現れて、二つの主題が変化しながら進んでいきます。

第2楽章 弦の伴奏にのって、哀愁を帯びた美しい主旋律をホルンが独奏し、やがてオーボエが優しさをたたえた副次旋律を奏でます。

中間部では速度が速くなり、クラリネットによる旋律が各楽器に広がって、クライマックスをつくり上げます。「運命の動機」が現れると、再び速度がゆるめられ、主旋律と副次旋律が奏でられます。この二つの旋律は、広々としたロシアの大地を思い起こさせるような、私にとっては忘れることのできない、印象的なメロディーです。

第3楽章 スケルツォが入るのが通例であったこの楽章にワルツを用いたのは、チャイコフスキーならではのといえましょう。彼のバレエ音楽を思い出していただければおわかりかと思いますが、なかでもワルツのすばらしさはさすがで、この楽章にもその才能が発揮されているように思えます。もっとも、ここでワルツとはいっても、踊るためのものではなく、形の上でのことなのです。

中間部に小さきぎみな動きの旋律が現れますが、これをうまく合わせるのは、演奏者としてはなかなか大変なことです。はたして本番ではどうなりますやら。

終結部には「運命の動機」が、この楽章にふさわしく、軽い感じで使われています。

第4楽章 冒頭で「運命の動機」が荘厳に演奏されます。なお、ここではホ長調となっています。

ティンパニのトレモロで緊張感が高まると、主部に入り、華やかさと激しさをもった第1主題が現れます。

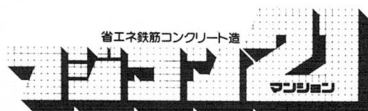
さらに行進曲風な第2主題が展開をみせながら進み、壮大なクライマックスを築き上げます。全楽器の和音とティンパニの連打で、曲が終わるかのように思われますが、その後「運命の動機」が堂々と演奏され、曲の前半に現れていた、どことなく陰うつな感じを吹き払うように、華麗に全曲をしめくくります。

(ヴァイオリン: 亀井 玲子)

「造る」住まいに、「創る」思想をこめて…



高級賃貸事業用マンション



21世紀を指向する加藤のハイクオリティ商品

- 中・高層マンション開発・販売 ●高級木造住宅開発・販売
- 建築請負 ●土地・建物仲介 ●法人仲介 ●営繕工事

三井不動産販売特約店 社団法人住宅産業開発協会会員
千葉県知事(8)第633号 建設業許可(般-63)第6437号



株式会社 加藤不動産商会

〒272 市川市市川1-23-9(市川駅北口前) ☎0473(22)1171

☎0473(22)1171

本日のオーケストラ団員

コンサートマスター 松山和子 第1バイオリン 石井久雄 亀井玲子 轟木朋浩 鳥塚昭子 長尾浩行 永田匡 広浜浩司 福原祥子 山中慎一 柳沢敦子 渡辺千恵子 黄曉麗 第2バイオリン 石本恵理 上野洋子 小島由美子 酒井基好 島津邦彦 須永恒雄 根守弘和 深沢武夫	福田徳子 松延裕子 三木美千子 村上葉子 吉岡一郎 鈴木志のぶ ビオラ 遠藤利幸 斎藤十一郎 島村稔 高橋行継 星乗昭 横関祐見子 横田行雄 渡部玲子 チェロ 小倉千秋 桜井健 佐藤千鶴子 田頭扶 中村公一 樋口進 福原耕二 山口勝之	倉沢由和 コントラバス 采元撰夫 菊池克彦 鈴木達郎 高橋耕一 三輪泰之 村上信乃 フルート・ピッコロ 木村純一 木村真諭紀 白木裕子 オーボエ 天野恭子 荒井淳 クラリネット 市川正幸 田崎京子 時田雄 ファゴット 青木直之 小島厚 戸川安道 塙陽子	ホルン 河野和正 越塚康央 笹本博央 志賀恒夫 鹿島典子 トランペット 一樹泰一 加地光 トロンボーン 久保昭 鈴木哲至 藪崎裕 チューバ 渡辺鉄雅 打楽器 岩橋正治 大川勝之代 鈴木保子 尾上恭
---	--	---	---

創造と技術で明日をつくる

当 市川市文化会館
建設業者



株式会社 大城組

取締役社長 佐々木芳興

本社 市川市真間3丁目10番23号 ☎0473-22-1161(代)
 営業所 葛飾区鎌倉3丁目55番10号 ☎03-657-7608

市川交響楽団協会

当協会は昭和26年7月に発会以来36年の歩み
を続け、千葉県内に健全な純音楽の普及と啓蒙
をはかり、クラシック音楽の愛好者層を増し、
平和な潤いのある生活がみちあふれる事を願う
文化団体で、然も音楽の中で最も強力に共鳴感
を起させるシンフォニックな楽団の育成と、そ
の演奏活動の実践を容易ならしめるための社会
教育団体でありまして、利益を得る団体でも、
ただ自分中心の、趣味だけを満足させるクラブ
でもありません。自分達の喜びを少しでも多く
の人に分け与えようとする奉仕団体でありまし
て、同じ趣旨の千葉交響楽団協会の中心的存在
であります。又、当協会には、市川交響楽団、
市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、市響ジュ
ニアオーケストラ、行徳混声合唱団の5楽団に
よって組織されております。市川交響楽団は昭
和55年度のサントリー地域文化賞をサントリー
文化財団より受賞、協会は昭和58年11月に文部
大臣地域文化功労賞も受賞しました。

名誉会長 沼田 武
会長 泰道 三八
理事長 村上 正治
理事 飯島 延浩 岩瀬 良三
川崎 千春 岸本 英雄
古賀 正一 高橋 国雄
丹沢 章浩 平田 博永
村岡 元一 山野 善郎
横田 行雄
監事 山口 重直
評議員 飯島 和 他23名
顧問 出光 昭介 今井 正
佐々木信次 友納 武人
鳥海 一郎 三木 春逸
山本 孝也 渡辺一太郎 他23名
参与 伊藤 一郎 伊藤 節 他110名
事務局長 井関 裕義

会 員 募 集

当協会の社会教育活動を円滑にして下さる協力会
員に維持会員と賛助会員があります。

維持会員 年 5,000円

賛助会員 年 20,000円以上

当協会主催の行事には入場無料。

賛助会員は協会参与としてご協力をお願い致します。

団 員 募 集

入会金 1,000円 会費 月 2,000円

(市川混声・行徳混声 月 2,500円 学生 1,000円)

(市響吹奏楽 月 1,500円 学生 1,000円)

各楽団を兼ねる事が出来る。

市川交響楽団 市川小学校音楽室(国道沿い)
練 習 市川駅北口より国道西へ徒歩4分
京成真間駅西口より徒歩8分
毎土曜日午後6時30分

市川交響吹奏楽 市川小学校音楽室(国道沿い)
団 練 習 市川駅北口より国道西へ徒歩4分
京成真間駅西口より徒歩8分
毎火・金曜日午後6時30分

市川混声合唱団 市川市文化会館練習室
練 習 本八幡駅南口より徒歩8分
行徳街道沿い
毎木曜日午後7時
技量は問題にしません

市響ジュニアオ 市川市文化会館練習室
ーケストラ練習 本八幡駅南口より徒歩8分
行徳街道沿い
毎日曜日午後1時
連絡先 0286(64)2902 永田

行徳混声合唱団 行徳公民館(行徳支庁舎3階)
練 習 東西線行徳駅より西側、
北へ徒歩6分
毎火曜日午後6時50分

事務局 市川市新田2-33-10
TEL 0473(78)1619

市川市 市民憲章

わたくしたちは 江戸川の流れと松の緑に象徴される郷土市川と その自然を愛し
由緒ある史跡と伝承をまもり育て 文教都市にふさわしく 教育と文化を重んじ
人間性豊かな調和のとれた明るいまちをつくるために つぎのことを定めます

1. きれいで 安全な より住みよいまちを つくります

1. 親切で あたたかい 希望にみちたまちを つくります

1. 教育と文化をそだて かおり高いまちを つくります

1. 健康で 楽しく働く たくましいまちを つくります

1. みんなの幸せを願い 豊かな福祉のまちを

つくります

昭和52年11月3日制定